

写真で振り返る新舎 50 年の歩み



本郷通り近影 東大 YMCA 周辺



1970 年の新追
分会館（旧舎）
全容

旧舎時代（1926年5月～1973年5月）



旧舎前景



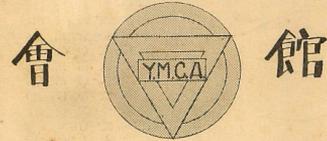
当時の舎生部屋



当時の食堂

旧舎竣工時の案内（ハガキセット）から（1926年）

東京帝國大學學生基督教青年會



東京市南郷區追分町五拾三番地

會 會 事 目 創
館 員 業 的 立

本會は明治廿一年五月十三日當時帝大學生たりし大西祝、五島
高田耕安氏等九名に依りて設立さる
學内に基督の精神を宣布し學生の靈性、知識、身體の發達を圖り
會員相互の友愛に依つて人格ある社會人を養成する事
本會の事業は左の七部に分つ

一、寄宿舎部 二、聖書研究部 三、研究部 四、圖書
五、音樂部 六、體育部 七、日曜學校部

本會の越旨に賛同する東京帝大學生並に卒業生は會員たる事を
一、通常會員 學生たる者
二、特別會員 卒業したる者
三、名譽會員 特に本會に功勞ありし者

社交室、講堂、委員室等及臨時に宿泊し得る客室四を有す、寄宿
約五十室を有し四十餘名を收容し得

旧舎設計者 遠藤新（えんどうあらた）

当青年会出身（1914工）建築士

フランク・ロイド・ライトの日本での愛弟子。
帝國ホテルを設計したライトは工期遅れ等の理由で解雇されたが、その後を遠藤らが引き継ぎホテルを完成させた。当會館は彼にとって帝國ホテル完成（1923年）直後の仕事であったようだ。ライトが好んだプレーリー様式は、この旧舎でも採用されたようである。



1973 年解体前の旧舎



本郷通り界限（1973 年）



懐旧舎記念会の様子（1973 年 3 月）



1973 年解体中の旧舎

旧舎解体のため、1973 年 3 月より引っ越しが始まった。舎生は近隣のアパートへ、備品等は仮倉庫へ、事務所は東京 YMCA での仮住まいとなった。1973 年 5 月 6 日、奥にあった二舎から取り壊しを開始、5 月 25 日から寄宿舍本体の取り壊しにとりかかった。ちなみに最後に撤収した住民は高幣秀和兄で最後の最後 23 日に退舎したという



会報第 97 号表紙から

新舎（1974年3月完成）



ファミリー本郷全影



東大YMCA会館（新舎）1975年3月完成



礼拝堂前



玄関部分（2026年以降、自転車置き場を拡張するため模様替えを行う計画がある）



礼拝堂内

旧会館の土地は東海興業（株）との間で等価交換され、近隣とともに再開発された。14階建てのファミリー本郷が建設され、当青年会はその一部を取得し新会館とした。会館の設計は当青年会出身の岩井要氏（1954工）が担当した。氏は、教会建築などの経験が深くまことに適任であった。
かくて新舎は1975年3月に完成した



新舎の寄宿室



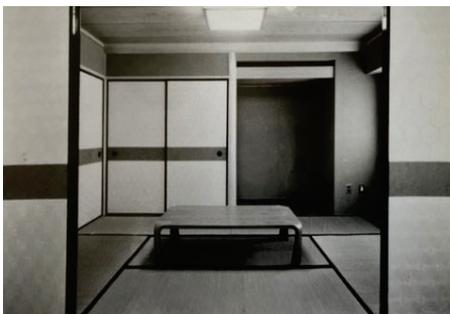
祈祷室



OB 談話室



食堂



客室



新会館竣工記念式の様子（1975年4月26日）
再建に尽力した先輩方の喜びはひとしおであった



香港 YMCA との交流会

(2007年2月26日来日した香港 YMCA の皆さんと会館で交流があった)



夏の修養会 (1978年7月東京 YMCA 野辺山高原センターにて)

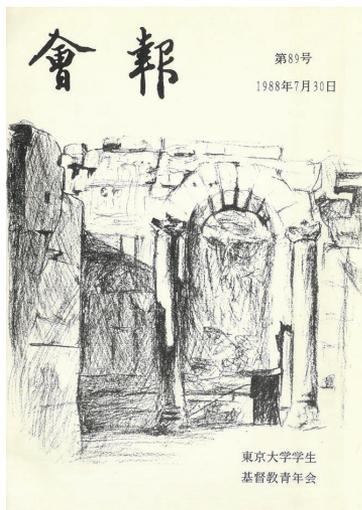
(〰夏が来れば、思い出す〰)



各階合唱対抗戦 (1986年クリスマス祝会にて)

(なかなかクリスマス・オラトリオにはほど遠いが、本人達は一所懸命)

YMCA 会報から



第 89 号 (1988 年 7 月) :

この年 5 月 14 日に当青年会創立 100 周年記念式典が開催された。参加者 100 名余り。会報では、その喜びを先輩、舎生達が寄稿している。

また、百周年記念式典と祝会を開催するにあたり、舎生総出で準備、対応を行ったことから、その舞台裏を紹介し、苦労談を熱く語っている。

特集
百周年

第 100 号 (1993 年 12 月) :

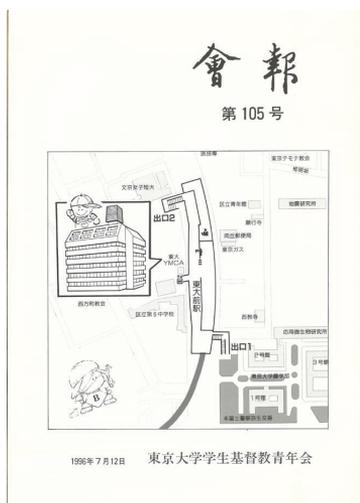
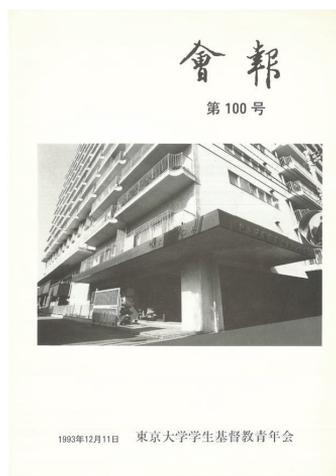
記念すべき第 100 号*である。

この年、当青年会は、東大五月祭で当時、聖路加

国際病院院長であった日野原重明先生をお迎えして公開講演会を開いた。先生の知名度の高さと大規模な広報活動が功を奏して会場は定員 320 名を優に越え、立ち見が出るほどの大盛況であった。この会報では、先生の講演を再録している。なお、日野原先生は京大 YMCA 地塩寮のご出身である。

また、会報では「会報を振り返って～会報を通して YM の 105 年を浮き彫りにする」と題し 99 号までの会報の総括を行っている。

* (注) 実は第 65 号というのが、勘違いで 2 回発行されていて、正確には 101 番目ではあったが・



第 105 号 (1976 年 7 月) :

この年 3 月 26 日、ようやく地下鉄南北線が開通し、東大前駅が利用できるようになった。駒場に通う教養学部生達はなんと一時間以内でキャンパスにたどり着ける。その感激を特集。

「改札を出るとすぐ正面にエレベーターがあります。(中略) 扉が開くと目の前に、本郷通りと信号機が見えます。ここまで来ればもう安心。通り沿いに「左」に向かって十歩二十歩、そこはなんと東大 YMCA があるのです。」

南北線開通に徹夜で並び一番乗りを目指した舎生がいた。その日の食堂ノートには 0009 番の切符が貼られていた。お疲れ様。

忘れえぬ人々（この50年、東大YMCAに貢献し帰天された先輩諸氏へ敬意をこめて）

* この他にも多くの先輩諸氏が当青年会に貢献されました（感謝）

A.D.

1975 S50 新金館再建



高見頼治（たかみえいじ）氏
1975.12.29 帰天（1925 文） 当会第 7 代理事長 東大教授他 英文学者

1980 S55



森有正（もりありまさ）氏
1976.10.18 帰天（1935 文） パリ大学教授他 仏文学者 哲学者



斎藤勇（さいとうたけし）氏
1982.7.4 帰天（1911 文） 当会第 5 代理事長 東大教授他、英文学者

1985 S60



片山哲（かたやまてつ）氏
1978.5.30 帰天（1912 法） 46 代首相弁護士 キリスト教社会主義者

当会 100 周年記念

S64/H1

1990 H2



堀豊彦（ほりとよこ）氏
1986.4.9 帰天（1912 法） 当会第 6 代理事長 東大教授他、政治学者 平和運動家

1995 H7



大塚久雄（おおつかひさお）氏
1996.7.9 帰天（1930 経） 東大教授他 経済史家 大塚史学で広く評価

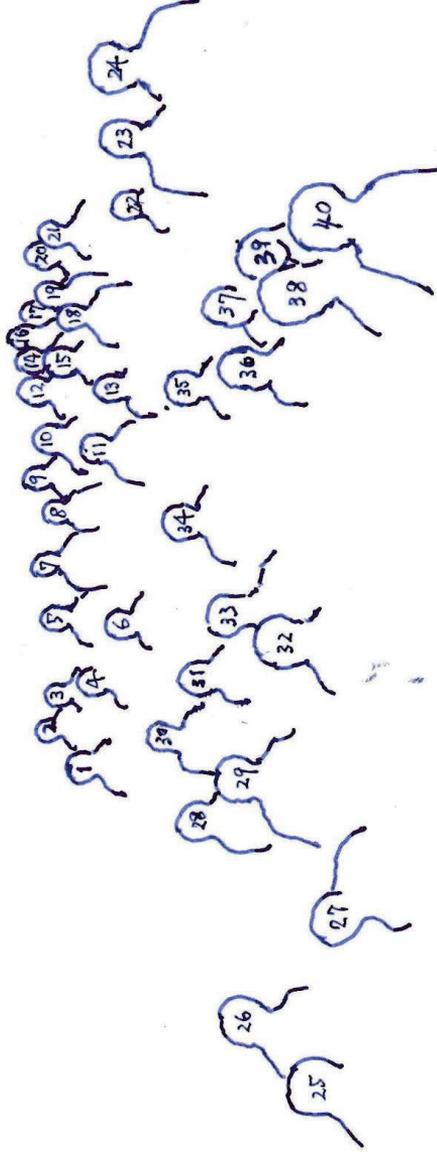
2000 H12

会報 85 号（堀豊彦先生追悼特集号）より引用：堀先生が師吉野作造の思想を継承して生涯職能的なリベラリストで在り続けたことは良く知られていることです（住谷一彦） 旧舎から今の新しい建物への（中略）大事業で、先生の御人柄とご見識なしにはできえないことでした。しかしクリスマス祝会のおとなどに、実に感銘深いお話をなさる方でもありました（野崎昭弘） 先生は一度だけ、私に向かって、羨ましい、と仰言られた（中略） 私が旧約聖書研究の道に踏み込む最終決断を促したのであった（月本昭男）

会館竣工50周年記念式典写真



記念式典出席者名簿



1	北彰 73文	梶村 慎吾 69法	清水 正之 71文	月本 昭男 71文D	岩見 宣治 71工	二神 康郎 60農	團 紀彦 79工	榊 裕之 68ID	柿谷 均 77理D	山口 栄一 77理D	倉光 泰隆 78法	関口 鈴 26法	半田 武比古 77工M	合田 隆史 78法	15
16	鎌田 将 28文D	石井 蓮 27農M	中村 義哉 00經	米倉 敬宏 26農	太田 萌 26工M		明神 恵子	Alireza Tavana 26ID	T. J. Wijaya 26ID		及川 茂樹 94文			宋 竜児 07公共院	30
31	永田 智子	中島 伸一 64法	関澤 純 66農	小堀 洋志 71工	岩原 正雄 71理D	神野 和磨 27理M	37	高本 真一 73医	39	崔 民赫 25法D	写真外	41	42	現役舎生	
												上田 光正 62養	高倉 鉄夫 83法		

(編集委員)

柿谷 均
倉光 泰隆
霜垣 幸浩
徳永 友花
半田 武比古
米倉 敬宏

木原 友紀
合田 隆史
高倉 鉄夫
中村 義哉
三沢 和彦
山口 栄一

* * * * *

* * * * *

(編集協力)

岩見 宣治
木原 盾
神野 和磨
篠原 正雄

良心の砦－東大 YMCA 会館竣工 50 周年記念誌

2026 年 3 月 31 日火曜日発行

発行人 月本 昭男

編集人 合田 隆史・山口 栄一

住所 〒113-0023 東京都文京区向丘 1 丁目 20 番 6 号

電話 03-3816-1029

印刷所 株式会社明光社

住所 〒112-0001 東京都文京区白山 3 丁目 6 番 21 号

電話 03-3814-4893

無断転載・複製を禁じます